

博物館だより

1992.6
第10号

大津市歴史博物館



犬 1950(昭和25年)東京国立近代美術館蔵

光と影のリアリズム

6月3日～6月28日

須田国太郎展を開催

大津市歴史博物館では、平成四年六月三日から二十八日まで、日本洋画の巨匠・須田国太郎生誕百年を記念して、「光と影のリアリズム―須田国太郎展」を開催します。本展は須田国太郎の代表作百点を展示し、独自の画風を確立した須田芸術を紹介します。

日本洋画壇の巨匠・須田国太郎（一八九一～一九六一）は、京都市中京区の商家に生まれ、幼い頃から美術に深い関心を示し、京都帝国大学では、美学美術史を専攻し、大学院へ進んでからは、関西美術院でデッサンを勉強した。一九一九年から四年間、スペインを中心にヨーロッパ各地を歴訪し、美術史研究と模写制作に励み、帰国後、和歌山高等商業学校や京都帝国大学で、美術史を講じた。一方、絵画制作も行い、一九三二年、初の個展を東京で開催し、一九三四年以降独立美術協会々員として活躍、一九四七年日本芸術院会員となりました。その後、京都市立美術大学や独立美術協会など後進の指導にあたり、ともに日本の洋画家の中心作家の一人として画壇に重きをなしました。晩年は、入院生活をおくり、病臥中も制作意欲を燃やし、再度のスペイン旅行を夢みながらこの世を去りました。

須田国太郎の画風は、西洋画の根底にあるリアリズムと近代絵画の出发点となった明暗と固有色の問題に取組み、他の日本の洋画家とは異なり、東洋の精神性に深く根ざした独自の日本の洋画を目指したもので、その広く深い学識に基づき、独特の強い陰影と特徴ある幽暗な色の世界の絵画におけるリアリズムを追求し、日本の近代絵画において比類のない独自の画風を確立しました。

今回の展覧会では、こうした須田国太郎の芸術を初期から晩年までの油彩画の代表作を中心に日本画、水彩画などの約百点の作品により紹介します。

なお、この展覧会は、京都新聞社との共催により開催するものです。

展示作品の概要

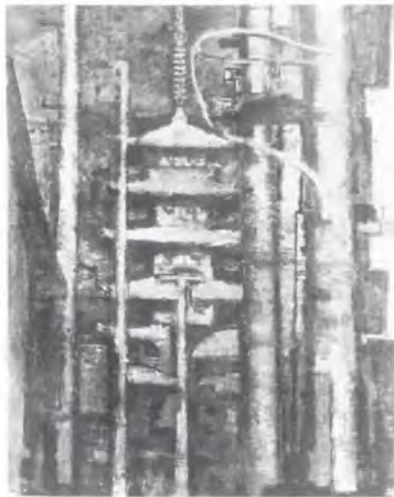
須田国太郎展では、次のような展示作品を展示し、皆さんをお待ちしています。

犬 一九五〇（昭和25年）

須田国太郎の動物画中の代表作。この作品は動物園で描いたシベリア犬と、京都の西大谷から南を望んだ家並を合成させることによって成り立つ。緑色を帯びた屋根をいたたく遠景の家並と、前景に佇む漆黒の中に赤い目を光らせた犬との間には、一種異様な緊張感がみなぎっており、堅固なフォームのうちに妖しい生氣と静寂さが表現されている。「第18回独立展出品作」。

法観寺塔婆 一九三二（昭和7年）

京都東山の八坂の塔を、東大路通りを挟んで八坂通りの奥に望んだ作者初期の社寺図の代表作。古建築の可変的な現象像の背後にその本来的な実像を認め、これと対象的な作者の現在性を対決させて、両者を融和させる可能性を求めるとに須田の好んだ古建築画の



法観寺塔婆 1932（昭和7年）
東京国立近代美術館蔵



信楽 1935（昭和10年）三重県立美術館蔵

コンセプトが看守所される。

信楽 一九三五（昭和10年）

昭和8年の秋以降に取材した作品。家並や田んぼの境界にある水平・垂直の線と、山の稜線や屋根にみられる斜めの線が周到に配置され、山に囲まれた農村の静寂を伝えている。画面右上に僅かに見える空と、画面下方の褐色の帯状の色面は、画面の閉塞感を補完すると共に、横方向への空間の広がりを導いている。この作品は、小さなタッチを緻密に積み重ね、密度の高い色面を作り上げる慎重な制作過程が特徴的である。昭和9年の「第1回京都市美術展覧会」出品作。



早春 1934（昭和9年）京都市美術館蔵

早春 一九三四（昭和9年）

宇治発電所付近を取材した大作。周囲の樹木、遠景の山に閉じられた空間の中で、川面に向かってなだらかに下ってゆく道が捉えられ、それを木漏れ日が照らすコントラストの配置によって自然のもつエネルギーの形象化として捉えることができ、人物をシルエツトとして添えることによって、大きな自然のもとに包み込まれる感覚を巧みに見るものに伝えている。

昭和9年5月の「大札記念京都市美術館展」出品作。

油彩画八十三点のほか、日本画・水彩画など十六点を含む約百点を展示します。

湖都の彩り展終わる

平成四年四月十日から五月十七日まで、三十二日間
にわたって開催しました企画展「湖都の彩り」館蔵・
寄託の名品」は、おかげをもちまして無事その会期
を終えることができました。開催期間中には、四、九
四八人の方々にこの展覧会を訪れていただきました。
今回の展覧会は、平成二年十月に開催した本館で開
催する初の館蔵・寄託品展です。昭和六十年から六年
余にわたる資料収集活動で、購入あるいは寄贈・寄託
を受けた資料は三〇五件に上ります。展覧会ではそれ
らのうち、美術工芸品を中心に一、二件の作品を出品
しました。近江八景や近江の名所を描いた絵画作品や
工芸品、仏像や仏画、



近世・近代に制作さ
れた膳所焼や大津絵
などを展示し、さま
ざまな様相をもつ大
津の文化を紹介しま
した。
なお、会期中の四
月二十五日午後二時
から、武田恒夫大手
前女子大文学教授に「描
かれた日吉山王祭」
というタイトルで記
念講演会を開催しま
した。聴衆は一二〇
人におよび熱心な質
問が相次ぎました。

収蔵品紹介⑨

東海道五十三次（人物東海道） 五六枚揃い
広重画 縦中版錦絵版画 江戸時代後期
縦二四・五×横一七・四cm

歌川広重（一七九七～一八五八）画の東海道五十三
次シリーズのなかでも、人物を中心に描いていること
から、「人物東海道」と通称されている。東海道といえ
ば、普通五十三次に、起点の江戸日本橋、終点（大尾）
の三条大橋を加え五五枚揃いであるが、本シリーズは、
それに四条河原の夕涼みの景が加えられているため、
五六枚の揃いとなっている。

版元は村田屋市五郎。江戸日本橋に店を構え、天保
から嘉永年間（一九世紀中頃）に活動した著名な版元
である。冒頭に記した法量は紙型の大きさであり、描
かれている画面サイズは、縦二一・九×横一六・五cm
となっている。本館所蔵のものは、刷りは四種類に大
別され、①浮世絵版画の検閲をする絵草子掛名主の印
鑑が二名連印（衣笠氏と村田氏）のもの、②二名の名
主が馬込氏と浜氏のもの、③二名の連印に加えて嘉永
五年（一八五二）閏二月を示す年月印のあるもの、④
まったく印のないもの、からなっている。

①は品川・神奈川・戸塚・藤沢の四宿、②は大磯ほ
か九宿で、藤川宿を除けば府中宿（静岡市）以東に集
中している。また③は、静岡県西部の白須賀宿以西に
固まっております。全部で一宿である。この①から③ま
での合計二五枚を除く、残り三一カ所は無印である。
広重の東海道シリーズは、保永堂版五五枚揃いを筆

頭に二十数種類が残されているが、なかでもこの「人
物東海道」は、人物というより、街道で生活する人々
のありさまを忠実に、しかも生き生きと描いている。

大津宿では（写真参照）、街道が琵琶湖に行くにした
がって低くなるという自然地形がそのまま描写されて
おり、その点では、同じ広重画の「木曾街道六十九次」
に見える大津と似た手法である。その道の両側に並ぶ
旅籠屋や客引きの女性も大きく描かれて、説明的な構
図となっている。また、藤川宿に描かれた「木賃宿」
では、蓆を敷いただけの床にすわり、自炊の鍋の前で
食事のできるのを待っている泊まり客や、その前を、
鬼の面を背にかついで歩く金毘羅詣での旅人などが描
かれている。木賃宿の障子紙が破れ、つぎをあててあ
るなど、みずほらしい当時の簡易宿泊所の雰囲気を入
アルに描きだしている。

これらの一枚一枚は、当時の街道風俗を調べるうえ
で、我々に恰好の研究材料を与えてくれており、広重
の街道シリーズのなかでも最良の歴史資料といっても
過言ではないだろう。

（種爪 修）



施設紹介

博物館日記抄

3月6日
5月11日

ミュージアムショップ

市歴史博物館では、平成二年十月二十八日の開館と同時にミュージアムショップを開いています。

現在、ミュージアム関係の記念品も豊富に出揃い充実してきました。来館の折りには、その記念に是非、ミュージアムショップにてお買い求めください。

主な記念品は、下記のとおりです。

☆特別・企画展図録

「仏教文化の聖地・大津」「火の贈り物」「近江の絵馬」「街道・宿場・旅」「湖都の彩り」

☆ふるさと大津歴史文庫

「大津の道」「大津の城」「大津の碑」「大津の祭り」「大津の伝説」「大津の名勝」「大津の名木」「大津の人物」「大津の社（近日刊行予定）」

☆新修大津市史

第一巻から第十巻。

☆オリジナルバツジ

本館のマスコットキャラクターの藤娘をカラープリントしたものを。

☆オリジナルTシャツ

大津絵の「鬼の念仏」をアレンジした図柄をプリントしたもので赤と青の二種類があります。

☆近江八景絵はがき

浮世絵風景版画で有名な歌川広重（初代）の作品で、安政四年（一八五七）出版の堅大判錦絵八枚揃いを絵はがきにしたものです。

3月6日 山本信吉氏（奈良国立博物館長）・今津町

史編さん室一行来館

7日 土曜講座「やきものの見方」（講師桑山俊道

県立近代美術館学芸員）。中野玄三氏（嵯峨

美術短期大学学長）来館

13日 山崎義徳大阪高等裁判所長官・水上寛治氏

（最高検察庁検事）来館

14日 宇佐山城跡調査。土曜講座「縄文時代を掘

る」（講師栗本政志市文化課技師）

16日 顧問会議開く

17日 森光夫氏（日本公園緑地協会会長）ほか来

館

18日 寺本典也氏（第三師団副師団長）・宮坂靖

彦氏（中国新聞社編集委員）来館

23日 常設展示室ビデオ調整

25日 「比良八講」行事調査。木之本町公民館一

行来館

27日 真野谷口町西勝寺調査

28日 横山光雄氏（東京大学名誉教授）来館

29日 豊橋市美術博物館一行来館

31日 山田新二・岩波忠夫両滋賀県副知事来館

4月1日 辞令交付。館内会議開く

2日 新智恩院文書調査

3日 日吉大社日吉山王祭の「大神神事」調査

7日 今治市教育委員会一行来館

8日 貴志真人氏（福井県立若狭歴史民俗博物館副館長）・花園大学文学部国文学科学生来

10日 企画展「湖都の彩り―館蔵寄託の名品―」

開場式およびレセプション。三井寺ライト

アップに合わせて午後八時まで開館臨時延

長（十二日まで）

15日 館運営会議開く。守山女子高校一三九人來

館

16日 中野美智子氏（彦根城博物館）・三上明暢

氏（堅田本福寺）来館

18日 土曜講座「石造品の見方I」（講師当館学芸

員）。福井県立若狭歴史民俗資料館友の会・

県警察学校新入学生・高木多喜男氏（京都

文化博物館学芸第一課長）来館

25日 企画展記念講演会（講師武田恒夫大手前女

子大学教授）開く。朴永錫韓国国史編纂委

員長来館

28日 吉田清氏（花園大学教授）来館

5月1日 館運営会議開く。菅田隆至氏（京都音楽文

化協会）来館

7日 今西光男氏（朝日新聞西部本社）来館。県

政モニター会議開かれる。読売テレビ取材

8日 ドイツのヴェルツブルグ市ポートチーム一

行・日本生命OB会一行来館

9日 土曜講座「石造品の見方II」開く

10日 京都橋女子大学文学部学生九三人・和泉市

教育委員会一行来館

11日 奈良本辰也氏（夫妻・福家俊明氏（園城寺

長史）来館

博物館だより 第10号

発行日 平成四年六月三日

編集 大津市歴史博物館

発行所 大津市御陵町二―二

大津市歴史博物館

電話（〇七五）二―二〇〇四